

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『高い人間力と明確な目標を持ち、弛まぬ努力をする生徒を育てる学校』。キャッチフレーズは『やる気と元気の溢れる芥川』。

- 1 「主体的に進路を切り拓いていく力」を持った生徒の育成 <学力向上と希望進路実現を確かな歩みで>
- 2 グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成 <使える英語力と国際感覚を育てる教育がベース>
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成 <体験学習の充実や学校行事、部活動の振興、規範意識の醸成や人権意識の向上を中心に>

## 2 中期的目標

- 1 「主体的に進路を切り拓いていく力」の育成 <学力向上と希望進路実現を確かな歩みで>
  - (1) 学力の向上 (授業力向上による授業改善、学習環境整備等)
    - ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造するため、生徒による授業アンケート等を活用した組織的な取組を推進する。
    - イ ICT を活用した授業改善についての研究を推進する。
    - ウ 自学自習力をつける。

\* 授業アンケートの結果、授業満足度は平成 26 年度が 75.8%。これを引き上げ、平成 29 年度には 80%とする。
  - (2) 希望進路の実現
    - ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。
    - イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。

\* 四年制大学現役進学率は平成 25 年度で 59.8%、うち関関同立現役合格数は 15。これを引き上げ、平成 29 年度にはそれぞれ 70%、25 とする。
- 2 グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成 <使える英語力と国際感覚を育てる教育がベース>
  - (1) 使える英語力の育成
    - ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。
    - イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、日本英語検定等の資格取得や英語学力調査得点率向上をめざす生徒を増やす。

\* 平成 26 年度の英語検定資格取得者は第 2 回終了時点で 26 人、英語学力調査で全国平均以上は 28%。平成 29 年度にはそれぞれ 60 人、50%とする。
  - (2) 国際感覚の育成
    - ア 交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。
    - イ 海外修学旅行等の推進により異文化と触れる機会を確保する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、国際理解教育に対する肯定率は平成 26 年度が 73.6%。これを毎年引き上げ、平成 29 年度には 80%とする。
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成<体験学習の充実や学校行事、部活動の振興、規範意識の醸成や人権意識の向上を中心に>
  - (1) 体験学習の充実
    - ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。
    - イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、地域との関わりに対する肯定率は平成 26 年度が 75.7%。これを毎年引き上げ、平成 29 年度には 80%とする。
  - (2) 学校行事、部活動の振興
    - ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。
    - イ 部活動の活性化を図る。

\* 新入生入部率は平成 26 年度が 88.5%。これを毎年引き上げ、平成 29 年度には 90%とする。
  - (3) 規範意識の醸成
    - ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。
    - イ 生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、規範意識に関する設問の肯定率は平成 26 年度が 91.8%。平成 29 年度まで 90%以上の水準を維持する。
  - (4) 人権意識の向上
    - ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にする人権教育を推進する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、人権教育に対する肯定率は平成 26 年度が 82.3%。これを毎年引き上げ、平成 29 年度には 85%とする。
- 4 信頼される学校づくり (教員力と情報発信力の向上)
  - (1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。
  - (2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。
  - (3) 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を発信する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率は平成 26 年度が 83.6%。これを毎年引き上げ、平成 29 年度には 85%とする。

\* 保護者向け学校教育自己診断における、情報発信に対する肯定率は平成 26 年度が 86.5%。これを毎年引き上げ、平成 29 年度には 90%以上とする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】</p> <p>前年度比で肯定率が向上した質問の割合は次のとおりである。 推移をわかりやすくするため、前年度と前々年度の比較を上段に、今年度と昨年度との比較を下段に記した。</p> <p>〈生徒〉 81.0% 〈保護者〉 73.7% 〈教員〉 42.9% 〈生徒〉 10.0% 〈保護者〉 21.0% 〈教員〉 74.3%</p> <p>結果として、生徒及び保護者が大幅に落ち込んでいる一方で教員の肯定率が大きく向上していることがわかるが、これは、今年度重点的に取り組んだ授業力向上対策等が効果として生徒や保護者に実感してもらうには至っていないことを示したものであると考えることができる。</p> <p>特に教員質問 1「芥川高校は教育活動全般について生徒や保護者の願いに応えている」の肯定率ははじめて 100%になったことと併せて考えれば教員にさらなる工夫と努力が求められていることは明らかである。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>教員質問 4「芥川高校はわかりやすい授業をするための工夫を積極的</p>	<p>【第 1 回】 H27. 7. 15(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教育について、事故防止のため交通ルールやマナーを遵守させるための指導の充実を願いたいとの意見が委員から出された。</li> <li>委員から留学で異文化に触れることの教育的効果は極めて大きいとの意見が出されたことから本校の国際交流の充実の参考にした。</li> <li>授業力向上研修や新任教員による模擬授業等の取組みが委員から肯定的に評価された。</li> <li>委員の勤務する学校で行われている授業参観の取り組みの紹介があったので、本校の参考にしたい。</li> </ul> <p>【第 2 回】 H27. 11. 4 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員よりプレゼンテーションソフトなど生徒の視覚に訴えかけるものを授業の冒頭の短い時間でも導入することの効果の大きさについて助言があった。また、自分独特のスタイルを持ちつつも新しい授業改善に向けた挑戦を繰り返すことの重要性についても意見が述べられた。</li> <li>中学校における授業改善への取り組みについての紹介を受けて、今年度の本校における研究授業に際して中学校の教員からの意見を得られるよう委員に依頼した。</li> </ul>

府立芥川高等学校

<p>に行っている学校である」の肯定率が本年度はじめて100%となった。</p> <p>また、教員質問5「年間の学習指導計画について各教科で話し合っている」の肯定率も過去最高の75.9%であったことから、教員の意識としては組織としても教科担当者個人としても授業改善等学習指導の充実を図っているということだと思われるが、一方で、生徒質問3「芥川高校の授業はわかりやすい」の肯定率は、僅かではあるが前年度比2.5ポイント低い73.3%となっている。</p> <p>これらのことから、今後は、授業改善等の取組みをより組織的に、改善点等について生徒に丁寧に説明することが求められる。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>上記【全般】でも述べたとおり、向上率が前年度比で向上した質問項目が非常に少ない中、生徒質問1「芥川高校に入学してよかった」と生徒質問7「学校生活についての先生の指導は理解できる」は向上していることから、一般的に見れば非常に落ち着いた学校像を描くことができる。しかし一方で、生徒質問8「私は、芥川高校の校則を守っている」と答えた生徒の割合は90.5%と高く、この数字の裏には、特別指導の機会が最も多かったSNS関連の指導の難しさがうかがえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭時間の確保、携帯・スマホ使用時間を制限する「ステキな時間を作ろうキャンペーン」について、生徒会を巻き込んだ手法は中学校でも参考にしたいとの意見が委員から述べられた。</li> <li>・後期生徒会役員選挙の際に、選挙権年齢引き下げに対応した指導を行ったとの報告に対し、委員から興味深いとの意見が出た。</li> </ul> <p>【第3回】H28.2.10(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹奏楽部のアンサンブルコンサートやオープンスクールでの部活動体験など新しい取り組みは高く評価できる。学校として努力する姿勢がよくわかる。との意見があった。</li> <li>・学校教育自己診断アンケートに関してはまだ保護者への浸透が少ないので、肯定的な数字が伸びないのではないかと。との意見が委員によって述べられた。</li> <li>・学習習慣が良い方向に向かっており、生徒のやる気を持続させるために、教科担任面談や管理職面談、状況が似ている数名毎の生徒をピックアップした面談等が効果的ではないかと。という意見が委員から出された。</li> <li>・アクティブラーニングが重要視されているが、それだけでなくしっかり学力がつくように指導を行ってほしい。との意見が委員から出された。</li> </ul>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「主体的に進路を切り拓いていく力」の育成	<p>(1)学力の向上</p> <p>ア「魅力的な授業」「わかる授業」を創造するため、生徒による授業アンケート等を活用した組織的な取組を推進する。</p> <p>イ ICT を活用した授業改善を推進する。</p> <p>ウ 自学自習力をつける。</p> <p>(2)希望進路の実現</p> <p>ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。</p> <p>イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。</p>	<p>ア・年度当初に「授業改善に向けた本年度の共通取組項目」(「あくたベース」)を示し、評価・育成システムを活用しながら、各教科及び教員ごとに PDCA サイクルに沿ってこれを運用する。</p> <p>・「授業見学期間」や授業力向上のための教員研修などを通じて授業力の向上を図る。</p> <p>イ・ICTを活用した授業の成果を検証し、教科単位で学力向上に向けた研究を進める。</p> <p>・ICT授業展開のための環境を整備する。</p> <p>ウ・生徒が教員に質問する際に活用できるスペースを増設する。</p> <p>ア・職業別ガイダンス、オープンキャンパス等を充実させるなど、入学当初から系統的なキャリア教育を展開し、早期から希望進路実現に向けたモチベーションを高め、スケジュール感を身につけさせる。</p> <p>イ・学力生活実態調査や模擬テスト結果等を活用した懇談等きめ細かい進路指導を充実させる。</p> <p>・大学入試結果を詳細分析し、大学別進学ガイダンス内容をより実効性の高いものにする。</p> <p>・PTA学年懇談会等の機会を活用して進路講話等を実施し、保護者にも早期から生徒の希望進路実現に向けた意識を高めていただく。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率80%以上。(H26; 75.8%)</p> <p>イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒の意識に関する項目)78%以上。(H26; 75.2%)</p> <p>ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率80%以上(H26; 77.9%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度90%以上。(H26; 88.3%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度90%以上。(H26; 86.7%)</p> <p>・四年制大学現役進学率65%(H25実績; 59.8%)</p>	<p>ア・残念ながら肯定率は63.3%と低下した。授業力向上が組織的な動きになりきれていないことが一因ではないかと考える。次年度への課題とする(△)</p> <p>イ・満足度は75.4%と昨年度より向上したものの目標数値には至らなかった。若手教員の授業力向上を組織で支えるシステムを構築したい(△)</p> <p>ウ・1回目74.5%、2回目73.5%と昨年度の実績を下回った。家庭学習時間の拡充に向けて宿題や週末課題の充実に加え有効な時間の使い方に関するキャンペーン等にも取り組みたい(△)</p> <p>ア・満足度は昨年度と同じ88.3%であった。来年度は2年生の総合的な学習の時間で進路指導やキャリア教育を充実させるなど有効な対策を模索したい(△)</p> <p>イ・満足度は85.4%と目標に達しなかった。大学別の進路説明会等きめ細かい指導を行ってきたつもりであるが、何が原因で数値が下がっているのか検証したい(△)</p>
	<p>グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成</p> <p>(1)使える英語力の育成</p> <p>ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。</p> <p>イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得を推進する。</p> <p>(2)国際感覚の育成</p> <p>ア 交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。</p> <p>イ 海外修学旅行で異文化理解の機会を確保する。</p>	<p>ア・グローバル専門コース選択科目において京都外国語大学と連携した授業を充実させるとともに、同コース選択生徒が外国語大学のみならず文系私大等幅広い希望進路を実現できるようカリキュラム改革を行う。</p> <p>イ・授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒には全員英語学力調査受験機会を与える。</p> <p>ア・ミラニ高校(オーストラリア)、萬芳高級中学校(台湾)等の高校生との交流機会を設定するとともに、現在受け入れている交流生(オーストリア)との交流を促進する。</p> <p>イ・台湾修学旅行を継続実施し、現地の高校生や日本文化を学ぶ大学生との交流事業をさらに充実させる。</p>	<p>ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度85%以上。(H26; 82.2%)</p> <p>イ・英語検定等の資格取得者数40人以上。(H25; 31人)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における海外の交流生と関わる機会への満足度85%以上。(H26; 82.2%)</p> <p>イ・台湾修学旅行における国際交流活動の満足度90%以上の水準維持。(H26; 94.0%)</p>	<p>ア・授業満足度は81.3%と昨年度を下回った。これを受け、次年度は関係機関との連携をもとに生徒のニーズに合った新たなプログラムを検討したい(△)</p> <p>イ・H27の英検資格取得者数は48人であり、目標数値をクリアした。今年度も順調に推移し第3回の結果を待つばかりである。引き続き少しでも多くの生徒が受験するよう促していきたい(○)</p> <p>ア・満足度は77.5%と大幅に減少している。これは前年度まで3年連続で受け入れていた交流生が昨年の夏から途切れていることに起因するものと思われる(△)</p> <p>イ・満足度は92.0%と目標水準を維持した。次年度は自由度の高い交流機会を増やすことによりこの水準を維持していきたい(○)</p>

## 府立芥川高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「豊かな人間力」を持った生徒の育成	<p>(1) 体験学習の充実</p> <p>ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。</p> <p>イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。</p> <p>(2) 学校行事、部活動の振興</p> <p>ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。</p> <p>イ 部活動の活性化を図る。</p> <p>(3) 規範意識の醸成</p> <p>ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。</p> <p>イ 生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。</p> <p>(4) 人権意識の向上</p> <p>ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にする人権教育を推進する。</p>	<p>ア・施設との連携強化により、保育園及び老人ホーム実習の事前事後指導の充実を図る。</p> <p>・運動会や親子交流行事など保育園行事への実習参加を促進する。</p> <p>イ・地域主催行事等へのボランティア参加や近隣中学校との部活動交流を拡充する。</p> <p>ア・学校行事への地域等関係者の招待など地域や近隣施設との連携を深める。</p> <p>イ・新入生入部率向上を図るとともに、近隣の学校園や施設、団体との連携を深める。</p> <p>・オープンスクールにおいて部活動体験を実施する。</p> <p>ア・生徒指導をより実効性の高いものとするため、生活時間の自己管理等生徒の実態に立脚した指導方針を示し、すべての教員が統一した指導を行う。</p> <p>・遅刻指導、携帯電話スマホ指導においては平成 26 年度の成果を踏まえ、保護者の協力のもとルールやマナーを遵守させる指導をさらに充実させる。</p> <p>イ・交通安全指導週間や防災避難訓練、薬物乱用防止教室等様々な機会を捉え、専門機関等の協力のもと規範意識を向上させるための指導を行う。</p> <p>ア・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にする教育を実践する。</p> <p>・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率 75%以上。(H26 ; 73.6%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率 80%以上。(H26 ; 75.7%)</p> <p>ア・体育祭や文化祭、授業発表会等への外部招待者数を 10%向上させる。(H26 ; 1,862 人)</p> <p>イ・新入生入部率 90%以上。</p> <p>・オープンスクール部活動体験率を参加者の 60%以上にする。(新規)</p> <p>ア・懲戒件数、10 件以下。(H26 ; 6 件)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率 90%以上の水準維持。(H26 ; 91.8%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 85%以上。(H26 ; 82.3%)</p>	<p>ア・肯定率は 73.2%と前年度を下回った。来年度は、老人ホーム実習事前学習等の工夫を試みたい (△)</p> <p>イ・肯定率は 73.5%と前年度を下回った。近隣中学校との部活動交流を行ったが、これを地域との交流と捉えなかった可能性もある。次年度は交流機会の拡充を図る (△)</p> <p>ア・外部招待者数は 1,895 人。昨年度の実績は超えたものの目標数値には至らなかった。次年度は学校新聞等のツールを活用した地域連携を充実させたい (△)</p> <p>イ・新入生入部率は 87%と目標数値に達しなかったが、全体の入部率ははじめて 80%を超えた。オープンスクール部活動体験率はおよそ 90%であった。(△)</p> <p>ア・懲戒件数は 1 件であり目標数値を上回った。次年度も生徒の自主性を尊重しつつ保護者と連携した生徒指導を継続したい (◎)</p> <p>イ・肯定率は 91.9%と前年度を僅かに上回った。次年度は交通ルールやマナーの遵守について重点的に取り組みたい (○)</p> <p>ア・肯定率は 80.9%と前年度を下回った。人権教育にかけた時間は前年度より多いことから、その内容や指導法について改善を図っていききたい (△)</p>
信頼される学校づくり (教員力と情報発信力の向上)	<p>(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。</p> <p>(2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。</p> <p>(3) 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を発信する。</p>	<p>・今日的な教育課題や業務の円滑化・連携強化につながる教員研修の充実を図る。</p> <p>・若手教員が中心となって企画運営する、教員の自主研修の充実を図り、若手教員が学校課題解決方策を提案できるようにする。</p> <p>・より魅力あるホームページをつくり、タイムリーに必要な情報を発信する。</p> <p>・新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え、地域及び学校園向け広報を充実させる。</p> <p>・中学生やその保護者の興味や関心を的確に把握し、学校説明会や中学校への情報提供等をよりタイムリーかつニーズに合致したものにする。</p> <p>・進路指導の内容や進路実績等の資料を学習塾に向けて発信する。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率 85%以上。(H26 ; 83.6%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率 90%。(H26 ; 86.5%)</p> <p>・学校メールマガジンの配信 50 回 (H25 ; 42 回)</p> <p>・連携関係にある学校、施設、自治会等への配布・掲出回数、年間 10 回以上の水準維持。(H26 ; 10 回)</p> <p>・学校説明会等の参加者数 2,000 人以上の水準維持。(H26 ; 2,005 名)</p>	<p>・生徒の肯定率は 81.3%と前年度を下回ったが、教員の肯定率は 95.0%と過去最高をマークしている。この差がなぜ生じたのかを検証していききたい (△)</p> <p>・肯定率は 85.1%と前年度を下回ったが教員の肯定率は 98.3%と極めて高い。次年度は情報の伝え方伝わり方について検証したい (△)</p> <p>・メールマガジン配信回数は 1 月末時点で 57 回と目標数値を大きく上回った。次年度も情報をタイムリーかつわかりやすく提供することを心がけたい (○)</p> <p>・配布・掲出回数は前年度と同じ 10 回であった。次年度も地域との連携を重視した有効な広報につとめたい (○)</p> <p>・学校説明会等の参加者数は 2,159 人と目標をクリアした。次年度も、適切な開催時期の決定や内容の精査等ニーズに合致した説明会等を開催していききたい (○)</p>